様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月　 ９ 日現在

機関番号：１７１０２
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2012～2013
課題番号：２４８２００３１

研究課題名（和文）日本古代密教視覚文化と寺院

研究課題名（英文）A New History of the Earliest Esoteric Buddhist Visual Culture in Japan

研究代表者
ＢＯＧＥＬ　ＣＹＮＴＨＥＡ（BOGEL, CYNTHEA）

九州大学・人文科学研究科（研究院）・教授

研究者番号：５０６３７９３１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　2,300,000円、（間接経費）　690,000円

研究成果の概要（和文）：関西実地調査、コレクション調査を行い、歴史的背景や当時の信仰の変化を含めた、仏像、絵画などの図像と堂宇の関係について研究を行った。平安時代の真言密教に対しての奈良の古密教への理解を深める上で、中国や東アジアにおけるルーツを探求する必要性が浮かび上がってきた。この研究は、平成26～29年度の基盤研究へ引き継ぐ予定である。また、国際ワークショップを開催、発表は神仏習合、唐招提寺、鑑真と戒律、五大虚空蔵、経塚について行われ、代表者は薬師寺薬師如来台座について発表を行った。
　これに加え、研究資料の収集、美術館や研究会における研究者との相談を通して、基盤研究に向けて基礎を固めた。

研究成果の概要（英文）：During the two-year start-up period for the grant, as proposed, Iundertook a preliminary survey of the earliest estoeric Buddhist visual culture in Japan and hosted an International Workshop for scholars in the field. I visitedsites in Nara, Shiga, Kyoto, and collections in Tokyo, exploring the roots of esotericism relating to Nara in China and South Asia, study that will continue in a Kaken project for H 26-29. The International Workshop held at Kyushu University drew participants from Japan, Korea, the United States and Europe. Their papers will be published in journals andessay volumes. I presented a paper on the pedestal of the Yakushiji Yakushi main triadat a symposium in Berlin in July, 2013 and at the Association for Asian Studies conference in March, 2014.I will publish this research in Japanese and English. In addition to field work I purchased essential books, met with many colleagues, and created a working database for Nara-period Buddhist icons and temples.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、美学・美術史

キーワード：密教　雑密　純密　空海

１．研究開始当初の背景

従来の密教研究では、一般的に空海が中国から請来した真言密教（純密）が成立した９世紀のはじめ、平安時代を日本における密教の本格的な開始地点と位置付けてきた。そのため、空海以前の奈良時代に信仰されていたいわゆる「雑密」について、十分な関心がはらわれてこなかった。その一因として、空海の真言密教が、彼が中国で接触した仏教の一部分を帰国後独自に発展させたものであるにも関わらず、先行研究では、空海周辺の思想に重点を置いて密教研究が進められてきたことがある。実際には、空海以前にも平城京周辺で密教的な堂宇の構想や陀羅尼系の儀式、仏像、仏画は存在しており、この事実を看過することはできない。この点については、美術史学だけではなく、宗教学の立場からも具体的かつ体系的な研究が、いまだなされておらず、これは研究史上の大きな欠落であった。

２．研究の目的

本研究の目的は、奈良時代、真言密教の祖である空海が入唐する以前の初期密教視覚文化を、新たな観点から研究することにある。このテーマについて取り上げた英語の論文はいまだかつてない。また、日本人の研究においても、8 世紀の密教に関連した仏画や仏像、信仰活動と後の平安時代の密教との関係という観点から密教視覚文化について論じたものは少ない。代表者は、近年平安時代の真言宗と天台宗、その仏画、仏像についての学術書を執筆したが、その結果として、は奈良時代密教の研究の必要性が浮かび上がってきた。そこで本研究では、インド、東アジアの密教のルーツを、日本との関わりという観点から解明することに取り組むこととした。これは、代表者にとって、日本での研究基盤を固めるための基礎的研究と位置付けられる。

３．研究の方法

本研究では以下の四つの方法を用いた。①奈良、滋賀、京都の実地調査。東大寺、唐招提寺、薬師寺などの伽藍、堂宇、仏像の調査を実施した。②調査を通しての画像資料の作成、収集。③密教および８世紀の仏教美術に関する和文、欧文の文献（東大寺要録、西大寺資材帳、日本書紀、続日本紀などの一次資料の蒐集と、藤原京跡の発掘報告書や、薬師寺、元薬師寺、新薬師寺、東大寺法華堂、唐招提寺、奈良時代仏教に関する最新の研究書、論文）の蒐集。④美術史学、宗教学、日本史学の国内外の研究者が一同に会する研究会またはワークショップの開催による研究共有によって研究を進めた。

実地調査は資料を蒐集、研究したうえで行った。東大寺法華堂は 2011 年より 2 年間修理中であったため、2012 年の実地調査では堂内の像が一時撤去されている環境で須弥壇を詳しく調査することが可能であった。東大寺ミュージアムでは不空羂索観音像やその宝冠、帝釈天像など補修された仏像を調査した。

2013 年に法華堂の拝観が再開された際も調査に赴き、かつて壇上に安置されていた他の仏像などを移した状態で檀上に安置されていた不空羂索観音像などを調査した。奈良時代の御堂の状態を想起させるもので、堂内が儀礼空間であったことを理解するために重要な調査であった。

ワークショップは九州大学で 2014 年 1 月 13 日―14 日に開催し、タイトルを「神仏習合と密教」とした。テーマを「８世紀古密教寺院とイコン（仏像、仏画）」とし、８世紀の信仰の変化、観音の図像的転換や、陀羅尼儀式と仏像の受容、国家と山岳修行者の関係

といった、８世紀における仏教史特有の複雑な問題を検討した。宗教学、美術史学、日本史学などの異なる観点から、古密教の定義や図像について議論を深め、当該研究を発展させることを目的として行った。
本ワークショップでは国内の参加者以外に、３名の研究者を米国から招聘し、２日間にわたり、各研究者による発表、議論を行った。代表者は 13 日薬師寺本尊台座に関する発表を行った。研究代表者を除く主な参加者は以下の通りである。

・Michael Como（コロンビア大学准教授、専門：７、８世紀の陰陽道及び仏教）
・Samuel Morse(アムハースト・カレッジ教授、専門：８世紀の仏像、特に奈良後期、平安初期の木彫群)
・Max Moerman(コロンビア大学准教授、専門：仏教哲学史、宗教視覚文化)
・Lucia Dolce（School of Oriental and African Studies、専門：中世仏教史）
・片岡啓（九州大学准教授、専門：サンスクリット語で書かれた哲学・神学・宗教・思想・解釈学文献）
・井手誠之輔（九州大学教授、専門：中国南宋絵画史）
・末吉武史（福岡市博物館学芸員、専門：日本古代仏像）

８世紀の論点を集中的に議論する国際会議は、これまで機会が少なく、国内外の研究者を交えての議論は非常に意義深いものであった。九州大学で古代仏教視覚文化を専門に研究するものを含め、大学院生を聴講者とし、大学院生の教育機会ともなった。ワークショップ前後にはエクスカーションとして３日間にわたり筥崎宮、唐津、観世音寺、戒壇院、竈門神社，九州国立博物館「大神社展」、宇美神社、国東半島磨崖仏など福岡、佐賀、大分の史跡、寺社、美術館調査を行った。

４．研究成果

１）代表者は儀礼空間の研究にアメリカで学んだ西洋的な方法を用いて取り組んだ。奈良時代の儀礼の背景を考慮し、空海に関連する寺社の儀礼と比較することで、純密と密教図像のレトリックは実際にあるのかどうか、真言宗の学問は奈良の古密教について偏見をもっていたのかどうかを明らかにしようとした。
空海前後の密教の比較・検討から、真言密教が陀羅尼経や変化観音、移入された図像や新羅の影響を重要視しておらず、神仏習合や、宇佐・大宰府の関係、神の場としての山の禊、玄昉の方針や大安寺の陰陽道を認めていなかったこと、真言密教の雑密に対する偏見が働いていたことが明らかとなった。

２）2013 年度には、薬師信仰と薬師寺に関する研究が大きく進展した。藤原京の元薬師寺、平城京に移転した薬師寺、奈良時代後期の新薬師寺について考察した。そのうち、薬師寺に関しては国際交流と天武天皇治世下の概念における唐や統一新羅の影響について研究した。薬師寺は藤原京で 680 年に発願されたとされるが、それは病床にあった鸕野讃良（のちの持統天皇）のために発願されたものであった。668 年には初めて統一新羅が日本へ勅使を送り、700 年までに新羅から 23 人、日本から新羅へも 9 人の勅使が送られた。669 年より 702 年まで日本から遣唐使が送られなかったことを考慮すれば、当時の日本において新羅から受けた文化的影響が大きかったことが推測できる。
708 年 2 月、元明天皇は都を藤原京より平城京へ移すことを決め、710 年に正式に遷都が行われたが、薬師寺はこの時に「移建」された。藤原京においては、元薬師寺と並んで

大官大寺が重要な役割を担っていたが、遷都に伴いこの 2 つの寺は最初に平城京に移され、それぞれにより広い土地が与えられた。大官大寺は平城京に移る際に大安寺と改称し、伽藍をより大きくした。一方、薬師寺は伽藍を拡大はされなかった。伽藍が移建されたことは長らく薬師寺本尊の移座説、新造説論争の中で移座説の根拠となってきたが、近年の藤原京跡の発掘調査によって西塔の屋根瓦は奈良時代ものであり、藤原京の元薬師寺は奈良時代の終わりまで建設が続けられていたことが判明した。それゆえ、なぜ平城京の薬師寺が元薬師寺と同じ、小さな伽藍のまま移ったのかという疑問がある。

考えられる要因として、まず、薬師寺が国家を癒し、守護するという特別な重要性を持っていたことが挙げられる。薬師如来と薬師経は健康祈願のためだけのものではなく、奈良時代半ばの国分寺の本尊が薬師であったように、薬師如来は護国思想の中心に据えられるものであった。当時、藤原京の薬師寺は持統天皇の病気を治癒したと考えられており、また持統天皇、文武天皇、元明天皇は天武天皇や次の天皇である持統天皇と強い結びつきを持っていたため、平城京の薬師寺は天武天皇の系譜の尊重ゆえに藤原京の元薬師寺をそのまま移そうとしたということが考えられよう。

３）薬師寺本尊が象徴するものについて分析し、薬師の関係する経典について考察した。その上で、薬師寺本尊台座のモチーフについての分析を行い、モチーフと経典の教義の間に共通するもの、モチーフの様式、象徴的意味について検討した。台座に見られる葡萄や四神というモチーフは仏教の台座としては異例で、夜叉は日本、中国、韓国においても前例のないものである。台座中央の柱を持つ異形（夜叉）も類例はないが、先行研究では、これらすべてのモチーフがローマやギリシャなど西洋文化との文化交流やや中国における異世界や墓、舎利に対する考え方を思わせるものであると指摘されてきた。この指摘はもっともであるものの、台座においてこれらのモチーフを組み合わせている意味について、詳細な検討は行われてこなかった。

そこで、代表者は持統朝、天武朝に目を向け、台座は元薬師寺に存在した台座の写しであるという仮説を立てた。これはこの異例のモチーフについて、完全ではないものの、解明を試みる説である。この説は、遷都の際に持統天皇と天武天皇の系譜を尊重し、元薬師寺の伽藍が踏襲されたものであると考えるものである。つまり、台座のモチーフを、元薬師寺創建段階の日本で流行していた古様なものと捉える見方を提案した。薬師寺台座の鋳造そのものには、作られた当時の最新技術が用いられており、薬師寺薬師本尊（如来と二体の菩薩）が、716 年に新造されたことは疑いのないことである。一方で、中国の遺品には見られない四神や新羅の葡萄がこの薬師寺台座には見られる点を、元薬師寺像に遡る古様なものとみなし、その源流にインドまたは東南アジアからの影響があるのではないかと推察した。

今後は、この台座に中国や朝鮮半島を通ってインドからの影響が見られることに留意し、重点的に研究を行っていく。代表者は東南アジアにおいて最もヒンドゥーの寺院が混在する地域の 1 つである、ミーソン西域に着目している。同地域にある、6 世紀のチャムの彫刻、7 世紀のタイの仏教美術には、台座と共通する柱を持ち上げる異形の姿やインド風の蓮のモチーフが見られる。それらはこれまでの先行研究に示されてきた、中国やギリシャの例よりも薬師寺像台座のものに酷似している。近代ベトナムでチャンパと呼ばれたチャム族は、その土地に古代より住んでおり、近代のベトナム人とは異なる民族である。彼らは異なった民族起源を持ち、イン

ドのヒンドゥー教や仏教から影響を受け、南アジアと海を通して交流を持った。今日奈良時代初期の薬師寺に残る白鳳後期の文化の失われた一面としてこれらの繋がり、交流を研究することは不可欠であり、この研究は H26-29 年の基盤研究に引き継ぐ予定である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計 7 件）
①Cynthea.J.Bogel、Upholding the Buddha with a Century of Study: The Pedestal of Yakushiji’s Main Icon（百年の研究：薬師寺本尊薬師如来の台座）、at the「Association for Asian Studies」conference 東方学会、2014 年 3 月 27 日、フィラデルフィア（アメリカ）
②Cynthea.J.Bogel、Upholding the Buddha with a Century of Study: The Pedestal of Yakushiji’s Main Icon、 at the Workshop「The Making of Religions and Religious Representations in Pre-Modern Japan: Imported, Native, and Modified Forms」、2014 年 1 月 14 日、九州大学
③ Cynthea.J.Bogel 、 Grapes, Gods, and Men: Greco-Roman and Asian Motifs on Eight-Century Japanese Buddha Pedestal、at the conference 「The Reception of Greek and Roman Culture in East Asia: Texts & Artefacts, Institutions & Practices 」、2013 年 7 月 4-6 日、FreieUniversität Berlin Institute for the History of Religions ベルリン自由大学（ドイツ）招待講演
④Cynthea.J.Bogel、Moving Signs Shifting Discourse、opening panel comments at the conference 「Visual Transmissions: Text and Image Relations in Buddhist Art」、2013 年 6 月 28-30 日、FreieUniversität Berlin Department of Art History ベルリン自由大学
⑤Cynthea.J.Bogel、Light Up, Dumb Down: Visual Media and Contemporary Buddhism、(現代仏教視覚文化：ライトアップ、キャラクター、もえ、漫画、at the「Association for Asian Studies」conference 東方学会、2013 年 3 月、サンディエゴ（アメリカ）
⑥ Cynthea.J.Bogel 、 The Reception and Transformation of the Buddhist Esoteric Paintings Imported to Japan by Kūkai（空海が請来した密教絵画の日本における展開）、2012 年 5 月、九州大学文学部
⑦Cynthea.J.Bogel、New Roads to Nirvana: Visual Buddhism, Modern Eyes、会議 at the conference 「Icons of Impermanence: Contemporary Buddhist Art」、2012 年 3 月、ブリティッシュコロンビア大学人類学美術館（カナダ）招待講演

〔図書〕 計 1 件）
①Cynthea.J.Bogel「Buddhist Aesthetics」『Oxford Encyclopedia of Aesthetics』、volume 1, ed. Michael Kelly、New York: Oxford University Press, 2014): 447-50.

〔その他〕
ホームページ等
1)http://www.geschkult.fu-berlin.de/e/khi/abteilung_ostasien/aktuelles_oakg_seite/International_Conference_Moving_Signs_Shifting_Discourses_June_2013.html
2)http://www.geschkult.fu-berlin.de/e/grea/

６．研究組織
(1)研究代表者
ボーゲル　シンシア（Cynthea J. Bogel）
九州大学・大学院人文科学研究院・教授
研究者番号：50637931